

議題（３）西尾市地域公共交通計画の評価について（協議事項）

1 概要

地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の規定に基づき、地方公共団体が、地域公共交通計画を作成又は変更した場合並びに地域公共交通計画の調査、分析及び評価（以下「評価等」という。）を行った場合は、地域公共交通計画及び評価等の結果を、速やかに主務大臣（国土交通大臣及び総務大臣）に送付する必要があります。また、評価の内容については地域公共交通活性化協議会において協議および承認を経る必要があるため、協議をするものです。

2 評価の内容

資料 3-1 のとおり

3 提出予定日

令和 8 年 1 月 9 日（承認いただいた後、速やかに提出します）

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

資料 3-1

西尾市地域公共交通計画の評価等結果（令和6年10月～7年9月）

協議事項

目標		目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
目標指標						
鉄道の維持活性化	各公共交通機関の年間利用者数 (別紙1)	別紙1	事業者が有する乗降データを用いて計測	別紙1	別紙1	-
ニーズに対応した公共交通ネットワークの充実						
次世代に向けた取り組みの推進						
公共交通を使いやすい仕組みの整備	六万石くるりんバス、いっちゃんバスの年間の土休日利用者数及び佐久島渡船の年間の観光利用者数	市内バス1乗車200円均一運賃の実施 おでかけきっぷの実施 のりつき券発行器の運用 佐久島グリーンズローモビリティの実証実験の実施 市内公共交通を網羅したマップの作成及び地図アプリケーションへ反映 バスロケーションシステムの運用	事業者が有する乗降データを用いて計測	令和6年度 六万石くるりんバス:71,359人（目標値：47,778人） いっちゃんバス:572人（目標値：1,956人） 佐久島渡船:67,828人（目標値：89,269人）	市内の小学生を対象に、コミュニティバス・路線バス・電車・渡船といった公共交通の利用促進を図る「おでかけきっぷ」を実施した。利用者アンケートでは、大半が公共交通の利用のきっかけとなったと回答しており、一定の効果はあったと思われる。一方で、いっちゃんバスについては、利用が低迷しており、需要との乖離があると思われる。	-
観光利用の促進、まちづくりとの連携強化				令和5年度 六万石くるりんバス:70,901人（目標値：46,386人） いっちゃんバス:861人（目標値：1,956人） 佐久島渡船:75,741人（目標値：85,692人）		
公共交通の魅力発進と情報提供	六万石くるりんバス、いっちゃんバスの収支率及び市の公共交通費用負担額	のりものカードの配布 GoogleMaps及びコンテンツプロバイダへのダイヤ情報掲載	運行委託事業者から提出される委託料請求内容及び市の決算額を用いて算出	令和6年度 収支率 六万石くるりんバス:9.7％（目標値6.8％） いっちゃんバス:1.2％（目標値2.1％） 公共交通費用負担額：468,627千円（目標値440,000千円）	今後の取り組みとしては、いこまいかーの路線バスへの接続検討及びいっちゃんバスに替わる新たな交通サービスとして相乗りタクシーの運行を行う。	目標値は公共交通計画記載。公共交通費用負担額は、名鉄西尾蒲郡線運行維持負担金、幹線系統補助金、コミュニティバス運行委託料、いこまいかー委託料の合計。
地域で支える仕組みの継続				令和5年度 収支率 六万石くるりんバス:9.1％（目標値6.6％） いっちゃんバス:1.1％（目標値2.1％） 公共交通費用負担額：451,999千円（目標値440,000千円） 収支率の改善は六万石くるりんバスの運賃収入の増加、公共交通費用負担額の増加は幹線系統への補助金額の増加によるところが大きい。		

（記載に当たっての留意事項）

- ・ 本様式中、表題の「（○年○月～○年○月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「－」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。

交通機関名	目標を達成するための取組	達成状況・分析			評価・次年度に向けた課題や取組
		前年同期値及び計画記載目標値	実績値(対前年同期比)	分析	
名鉄西尾・蒲郡線	利用促進補助（親子利用・団体利用）、復刻塗装貸切列車、デジタルスタンプラリー、絵画コンクールなどを実施	前年:3,064千人（R5年度） 計画:3,392千人（R6年度）	3,066千人 （+2千人）	積極的な活性化事業の推進や補助制度の周知によるものと思われる。	引き続き、各種活性化事業の推進や補助制度の周知に努めるほか、駅周辺環境の整備などにも取り組み、鉄道を利用しやすい環境を整えることを検討する。
名鉄東部交通バス（幹線）	市内乗降1乗車200円運賃の継続 佐久島渡船との接続や利用実態を考慮したダイヤ改正の実施。 市内学生向け定期券「スクールパス」の発行 おでかけタクシー「いこまいかー」、「相乗りタクシー」目的地への停留所の追加	前年:390,315人 （R5.10-R6.9実績） 計画:328,276人 （R6.10-R7.9）	446,851人 （+56,536人）	市内200円均一運賃の継続、「いこまいかー」や「相乗りタクシー」の目的地への停留所の追加の他、利用実態に見合った適切な運行計画を実施し、利用者の利便向上に努めた。その結果が利用者数の増加につながったと考えられる。	限られた乗務員数の中でお客さまが利用しやすいダイヤを設定することが必要である。藤田医大系統、東岡崎系統の両方について改善余地がないかダイヤ等の検討を継続する。また、沿線で開催するおでかけタクシー「いこまいかー」、「相乗りタクシー」の目的地への新たな停留所の追加を検討する。
ふれんどバス（幹線）	HP、CentXなどのスマートフォンでの時刻検索システム、バスロケーションシステムの提供 コンテンツプロバイダへのデータ提供 おでかけタクシー「いこまいかー」、「相乗りタクシー」目的地への停留所の追加	前年:281,541人 （R5.10-R6.9） 計画:260,906人 （R6.10-R7.9）	304,140人 （+22,599人）	運行事業である名鉄バス圏による周辺高校への周知活動や「いこまいかー」、「相乗りタクシー」の目的地への停留所追加を実施した。その結果が利用者数の増加につながったと考えられる。	現状のサービスを維持しつつ、利便性向上に努めるとともに、利用者増加のため、新たな利用者発掘を目的とした利用促進策を実施する必要がある。また、沿線で開催するおでかけタクシー「いこまいかー」、「相乗りタクシー」の目的地への新たな停留所の追加を検討する。
六万石くるりんバス	名鉄東部交通バスのスクールパスによる無料乗車制度の継続 1日200円運賃の継続 名鉄東部交通との共通乗車券制度の継続 バスロケーションシステムの提供 コンテンツプロバイダへのデータ提供	前年:240,398人（R5年度） 計画:181,977人（R6年度）	246,183人 （+5,785人）	再編から5年が経過し新しい路線が地域に根付いてきたことによる増加と思われるが、利用者数の増加幅は鈍化してきているため、新たな利用促進策や利便向上策の実施が必要だと考えられる。	利用者数増加のため、より利用者が使いやすいダイヤの検討やバス停の新設といった施策を検討する。また、新たな利用者の発掘のため、地域と連携した乗り方教室等も積極的に実施していく。
いっちゃんバス	沿線地域イベントと合わせた無料乗車日の実施 バスロケーションシステムの提供 コンテンツプロバイダへのデータ提供	前年:3,126人（R5年度） 計画:7,539人（R6年度）	3,097人 （-29人）	利用者数は減少し、1便当たり利用者数は1.2人である。地域の移動需要と運行形態が合っていない状況であったため、令和7年3月に廃線とし、新たな運行サービスとして、相乗りタクシーの運行をスタートさせた。	地域の移動需要と運行形態が合っていない状況であったため、令和7年3月で廃線とし、新たなサービスとして、相乗りタクシーの運行をスタートさせた。今後はこれまでいっちゃんバスを利用していた乗客の移動を確保しつつ、新たな利用者の獲得に向けた施策を実施する。
いこまいかー	幡豆地区において、利用者、運行事業者の負担軽減を目的としたチケットレス化事業を実施 目的地追加に向けた地元調整を実施	前年:6,942人（R5年度） 計画:4,575人（R6年度）	7,908人 （+966人）	運転免許証自主返納者への制度案内チラシ配布や地域への周知が浸透してきたことにより利用者数が続伸している。	順調に登録者数・利用者数は増加している。利用が集中する平日午前中は、タクシーの供給が不足することがあるため、タクシー会社と連携した対策を検討する。路線バスの停留所の目的地追加を検討する。チケットレス化事業について、全市民展開を検討する。
佐久島渡船（幹線）	御船印の作成・発行を実施 新造船「第二はまかぜ」の就航	前年:192,894人（R5年度） 計画:222,989人（R6年度）	176,656人 （-16,238人）	依然コロナ禍前の乗船客数まで回復せず、減少傾向にある。一方で令和6年11月に新造船「第二はまかぜ」が就航し、佐久島に由来するペイントを施したり、バリアフリー化や案内電光掲示板を設置するなど利用者の利便性の向上に努めた。	引き続き御船印の取り組みを継続する。また利用客の利便性向上のため、券売機にキャッシュレス決済の導入を検討する。